

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

活発な梅雨前線の停滞に伴う大雨への対策について（通知）

このことについて、神戸地方気象台から「大雨に関する兵庫県気象情報」の発表がありました。については、下記のとおり留意すべき事項を取りまとめましたので、生産者に対して幅広く注意喚起をお願いします。

記

1 共通事項

- (1) 事故防止の観点から、ほ場の見まわり等については、気象情報を十分に確認し、大雨がおさまってから行う。
- (2) 局地的な大雨が予想され、ほ場の冠浸水のおそれがあることから、速やかな排水対策を実施し、これまで冠浸水したことがあるほ場や地域については、重点的に実施する。
- (3) 大雨後の対策として、冠水して葉が泥で汚染された場合には速やかに洗い流し、適時適切な防除を行う。

2 作物別の対策

作物	対策（栽培管理上等の留意点）
水稲	<p>(1) 事前対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。 ② 出穂が近い品種は特に注意し、深水管理に努める。 <p>(2) 大雨後の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 冠水被害を受けたほ場は速やかな排水に努め、通常の水深まで水を落とす。少なくとも葉先だけでも水面に出すよう努める。 ② 冠水被害を受けた稲体は水分調節、肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度な乾燥に注意する。 ③ 浸水や冠水等を受けたほ場では、生育遅延や根腐れを引き起こしやすいので、病虫害の発生動向に注意し、適切な防除を行う。 ④ これまで軟弱徒長気味に生育しているほ場では、特に葉色、生育診断等に基づき穂肥を適期適量施用する。天気 of 急激な回復によって稲体の窒素吸収が盛んになるため、節間伸長やいもち病の発生に十分留意し、窒素質肥料の過剰施用を避ける。 ⑤ スクミリンゴガイ発生ほ場では、移植4週間以内の場合、水位が上昇すると本種の被害に繋がるため、できるだけ早期に浅水(4cm以下)になるよう努める。
大豆	<p>(1) 事前対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。 <p>(2) 大雨後の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 浸水や冠水等を受けたほ場では、排水溝をさらえて速やかな排水に努める。 ② 浸水や冠水等を受けたほ場では、生育遅延や根腐れを引き起こしやすいので、病虫害の発生動向に注意し、適切な防除を行う。 ③ 土壌の多湿状態が長期間継続すると、根系における酸素が不足し、根粒菌の活動が抑えられるため、天候の回復後、中耕や培土を実施するとともに、葉色や生育に不良の症状が見られる場合には、同時に窒素の追肥等により生育量の回復に努める。 ④ 浸水や冠水等による発芽不良によって再は種を行う場合やは種が実施できていない場合には、ほ場条件を整え、は種晩限(7月末(狭条密植栽培))に注意しつつ、は種量を増やして苗立ち数の確保に努める。

露地野菜	<p>(1) 事前対策</p> <p>① 排水溝を再点検する。特に排水溝周辺の草刈り及び刈草等の除去を行い、スムーズに排水ができるようにする。</p> <p>(2) 大雨後の対策</p> <p>① ほ場に雨水が停滞している場合は、早急にほ場の排水に努める。</p> <p>② 折損した葉や茎を除去し、適切な薬剤散布を行う。作物が倒伏している場合には、速やかに引き起こし、必要に応じて誘引や結束等で固定する。</p> <p>③ 追肥、液肥の葉面散布等により生育の回復に努める。</p> <p>④ 生育初期に被害を受けた場合は、予備苗による植え替えや再度播種を行うことで被害の軽減を図る。これらが困難な場合は、他の品種または作物に転換することも検討する。</p> <p>⑤ 果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。</p> <p>⑥ 天候が急激に回復した後は、強日照により作物にしおれなどの障害を生じやすいので注意する。</p>
施設野菜	<p>(1) 事前対策</p> <p>① ビニールハウス等の施設では、被覆のやぶれや穴の補修を行い、マイカー線の増し締めや押さえのラセン杭、鉄筋などの緩み等を再点検する。</p> <p>(2) 大雨後の対策</p> <p>① 破損した施設については、早急に実態を把握するとともに、復旧に努める。</p> <p>② 施設野菜で施設内に水が侵入した場合は、速やかに施設外への排水を図るとともに、施設内の湿度を下げるため、換気を十分に行い、病害の発生を防止する。</p> <p>③ 天候が急激に回復した後は、強日照により作物にしおれなどの障害を生じやすいので、遮光カーテンなどで遮光し、過剰な蒸散を防ぐ。</p> <p>④ 病害虫の発生が懸念される場合は、必要に応じて薬剤散布を行う。</p> <p>⑤ 大きな被害がない場合でも、必ず施設の点検を行う。</p> <p>⑥ 施設園芸共済等に参加している場合は、事故後、現地確認のため、農業共済組合へ速やかに連絡する。</p>

果樹	<p>(1) 事前対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口の点検をする。 ② 特にマルチ栽培の場合は、園外への排水量が増加する可能性があるため、排水路や排水溝の点検、清掃に留意する。 <p>(2) 大雨後の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 雨水が停滞しないように、一刻も早く園外に排水する。 ② 落ちた果実や枝上の腐敗果は病害虫の発生源となるので、集めて処分する。 ③ 病害虫の発生が懸念される場合は、必要に応じて薬剤散布を行う。
花き	<p>(1) 事前対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 園芸施設について、フィルムが破れていたりする場合は補修する。 ② ほ場周りの排水溝の点検を行い、雨水の排水に努める。 <p>(2) 大雨後の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 冠水又は浸水の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努めるとともに、倒伏した株を早急に立て起こし、茎や花穂の曲がりを防ぐ。 ② 降雨後は、下葉の泥はね、過湿により、病害が発生しやすいため、折れた茎葉や下葉除去を行うとともに、適切な薬剤防除等により、病害の発生抑制に努める。 ③ 必要に応じて土寄せ、追肥、液肥の葉面散布等を行い、生育の回復に努める。 ④ 園芸施設については、天候が回復した後は、ハウス内温度が急上昇し、高温障害を生じやすいので、フィルム巻き上げ等の換気操作や、必要に応じて遮光対策を行う。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・ 兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4065
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・ 県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
農業技術センター 病虫害部 TEL (0790)47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)